

基本計画の中間報告（案）

第1章 計画の策定にあたって

- 1 計画策定の趣旨
- 2 計画の性格・役割
- 3 計画の期間

第2章 子育て支援・少子化対策をめぐる現状と課題

- 1 少子化の進行とその背景
 - (1) 少子化の状況
 - (2) 少子化の要因
 - (3) 少子化の要因の背景
- 2 子どもと子育て家庭などを取り巻く環境
 - (1) 子育て家庭の状況
 - (2) 仕事と子育ての両立
 - (3) 子どもの状況
 - (4) 若者の県外流出の状況

第3章 計画の目標と基本方針

- 1 めざす社会の姿
- 2 基本理念
- 3 基本目標
- 4 基本方針

第4章 子育て支援・少子化対策の具体的な展開

- 1 今後取り組むべき重点施策 — **資料3-3**
- 2 施策体系

第1章 計画の策定にあたって

1 計画策定の趣旨

○これまでの県の取り組み

近年、全国的には、核家族化、少子化の進行等により、子どもが心身ともに健やかに成長する環境が失われつつあり、本県もその例外であるとはいえません。

富山県では、平成21年6月に制定した「子育て支援・少子化対策条例」や、平成27年に策定した「かがやけ とやまっ子 みらいプラン」に基づき、子育て支援・少子化対策に関する施策を総合的に推進してきました。しかしながら、全国同様、本県においても出生数の減少、合計特殊出生率の低迷が続き、少子化の傾向に歯止めがかからない状況にあります。

○国の動き

・次世代育成支援対策推進法の延長

平成17年4月から10年間の時限立法の「次世代育成支援対策推進法」が、平成37年3月31日まで延長されています。

○新計画の策定

子育て支援・少子化対策条例では、子育て支援・少子化対策を総合的に推進するための基本計画を策定することとしており、策定から5年を経過する「かがやけ とやまっ子 みらいプラン」（平成27年度～平成31年度）の後期計画として、これまでの施策の推進状況や国の関係法令の改正等の動きを踏まえ、新しい基本計画を策定するものです。

2 計画の性格・役割

- ・次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画
- ・子ども・子育て支援法に基づく子ども・子育て支援事業支援計画
- ・子ども・若者育成支援推進法に基づく計画
- ・子どもの貧困対策の推進に関する法律に基づく計画
- ・母子保健計画策定指針に基づく計画

また、子育て支援・少子化対策に取り組むための目標を示し、すべての県民が一体となって、その実現に向けたそれぞれの役割を示すもの。

3 計画の期間

令和2年度を初年度、令和6年度を目標年度とした5か年の計画です。

第2章 子育て支援・少子化対策をめぐる現状と課題

1 少子化の進行とその背景

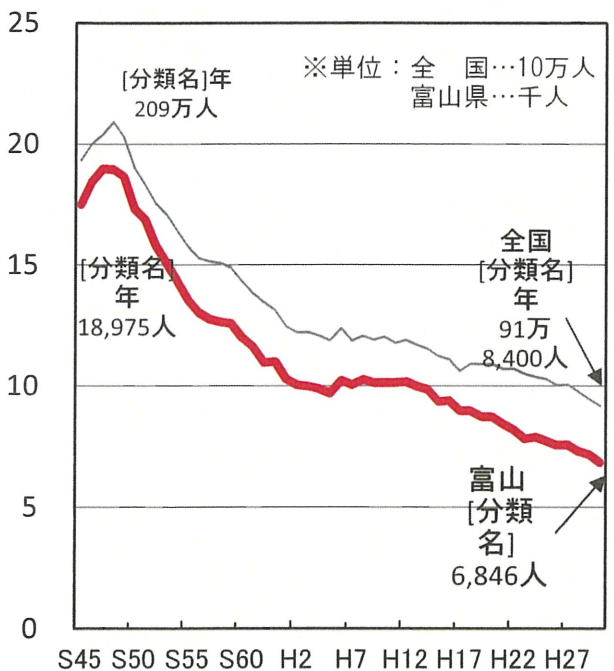
(1) 1 少子化の状況

①出生の動向

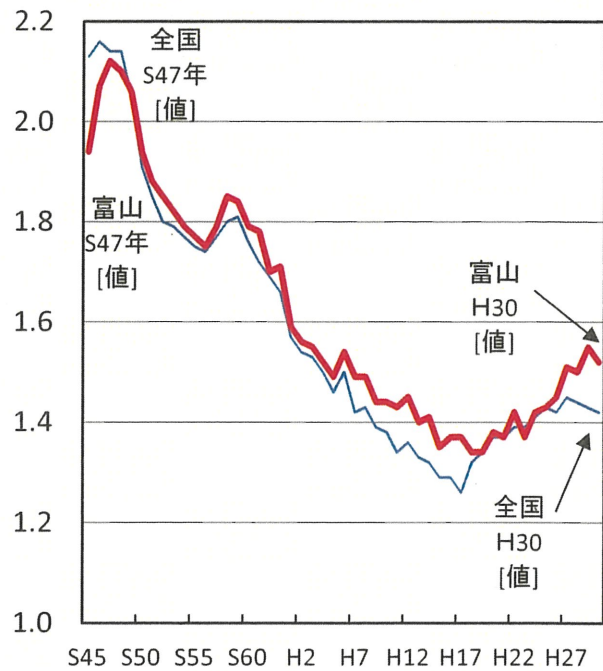
出生数は、昭和47年をピークに減少傾向にあり、平成13年に1万人を割り込み、平成23年には8千人を、平成30年には7千人を割り込み、6,846人となっています。

合計特殊出生率（一人の女性が一生の間に生む子どもの数）は、平成18年度、19年度には1.34と過去最低となりましたが、以降増加傾向に転じ、平成27年に21年ぶりに回復した1.50台を4年連続維持し、平成30年は1.52と全国地1.42を上回っています。

◎出生数の推移（全国・富山県）



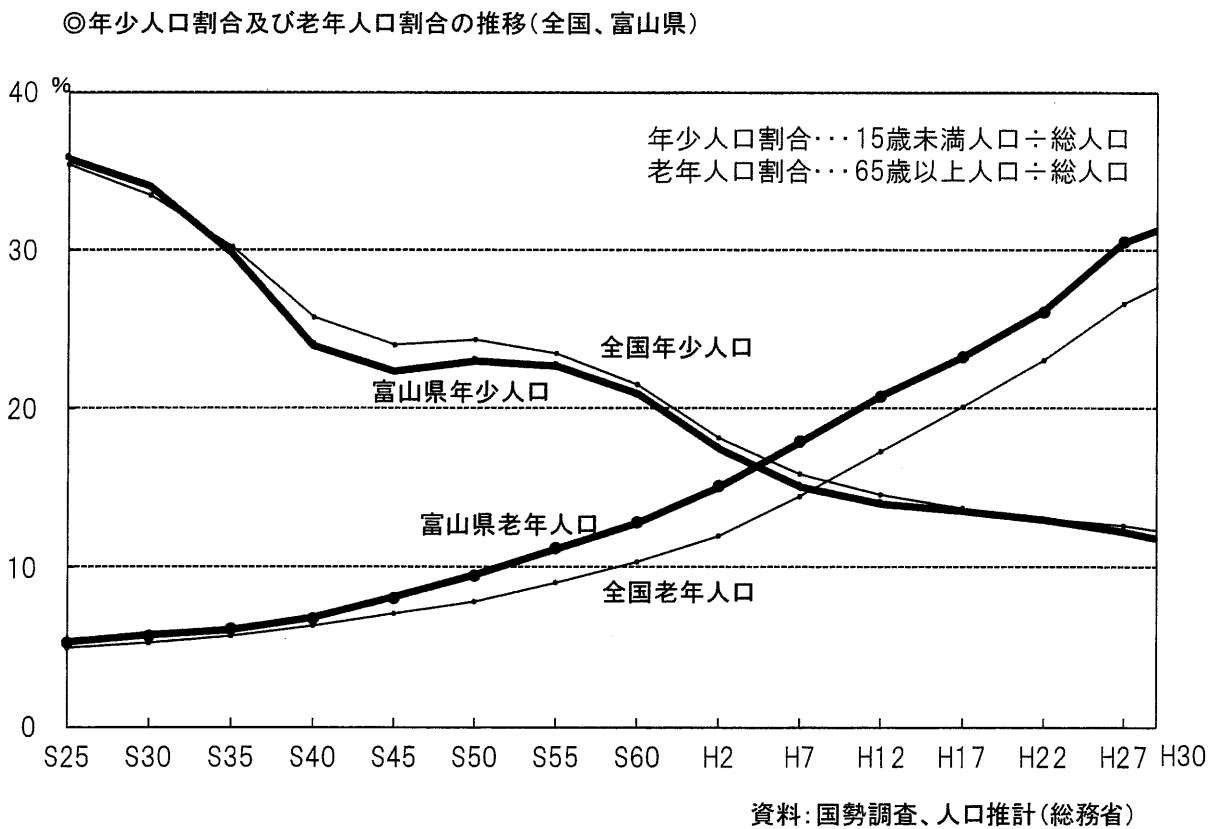
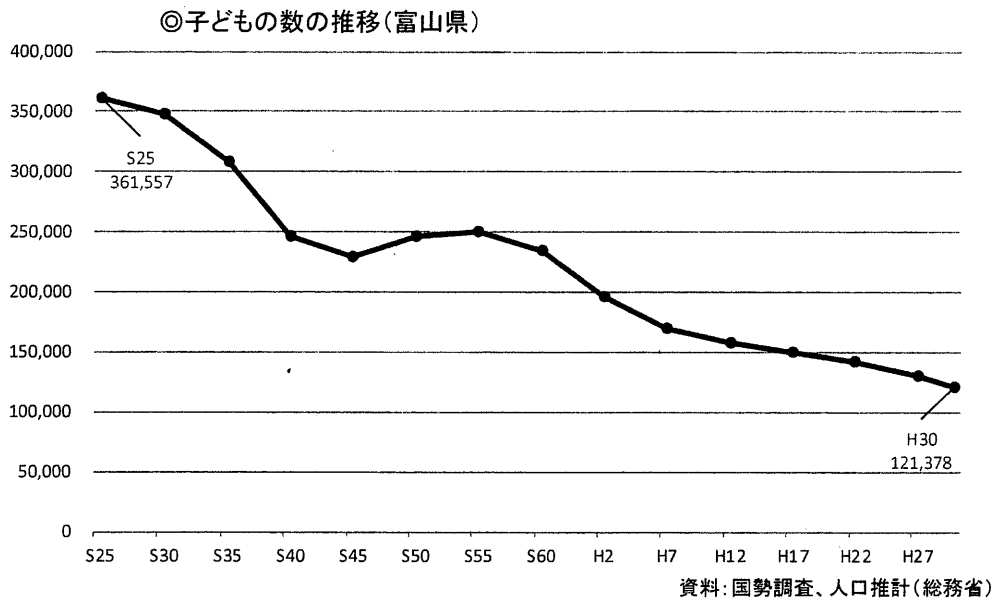
◎合計特殊出生率の推移(全国・富山県)



②子どもの人口割合の推移

子どもの数（15歳未満）は、平成30年は約121千人となり、減少傾向が続いています。

また、富山県の人口に占める15歳未満の子どもの割合（年少人口割合）は、平成17年13.5%、平成22年13.0%、平成27年12.2%、平成30年は11.6%と年々低下しています。



0歳児の男女別人口は、男性が209人多く、20代で男性が約3,000人多くなっており、20代の女性が県外に流出しています。

◎年齢別男女別人口（富山県）（単位：人）

年 齢	男女計	男	女
0	7,063	3,646	3,417
1－4	29,495	15,168	14,327
5－9	40,115	20,661	19,454
10－14	44,705	23,012	21,693
15－19	49,852	25,595	24,257
20－24	43,457	23,429	20,028
25－29	43,147	23,026	20,121
30－34	49,781	25,906	23,875
35－39	57,393	29,618	27,775
40－44	74,143	38,236	35,907
45－49	78,773	40,394	38,379
50－54	64,537	32,194	32,343

	男女計	男	女
15歳未満	121,378	62,487	58,891
15～64歳	587,213	300,270	286,943
65歳以上	332,619	141,451	191,168
年齢不詳	9,036	5,250	3,786
合計	1,050,246	509,458	540,788

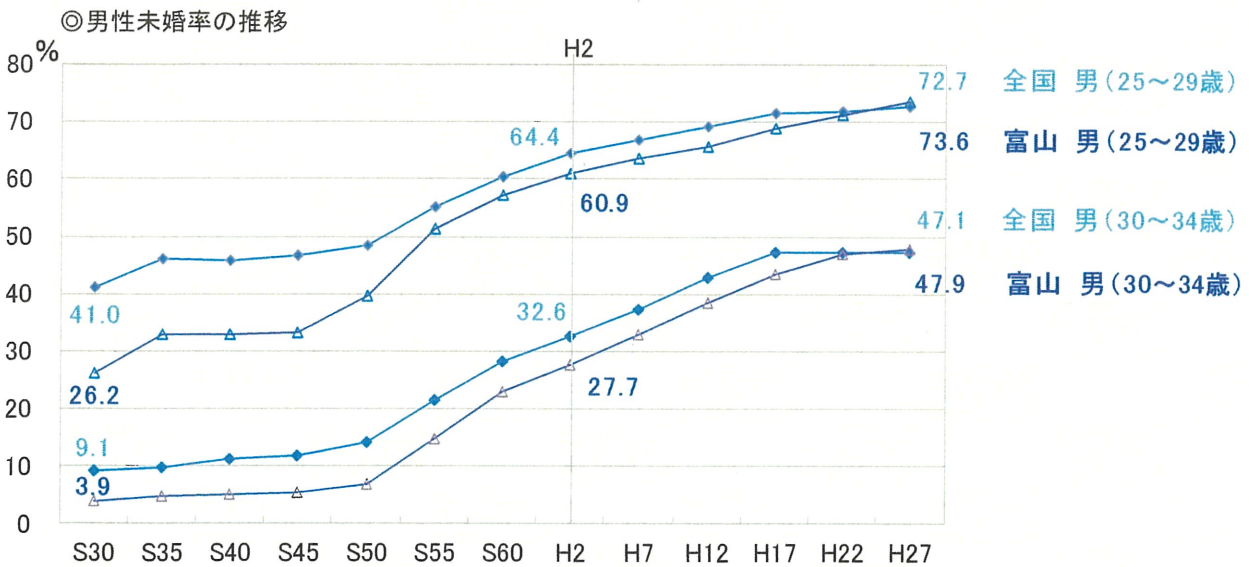
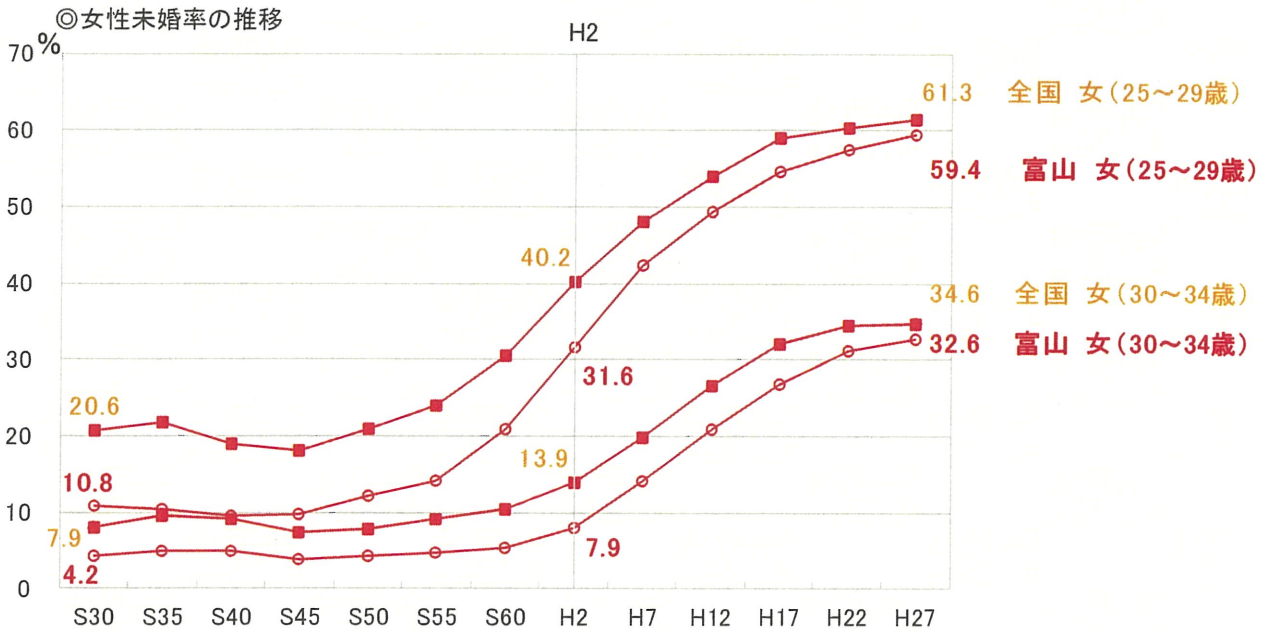
（平成30年10月1日現在）

資料：人口移動調査（富山県）

(2) 少子化の要因

①未婚化の進行

近年、男女ともに未婚化が進んでおり、特に女性の25～29歳、30～34歳の未婚率は、平成2年にはそれぞれ31.6%、7.9%であったものが、平成27年には、それぞれ59.4%、32.6%と、大幅に上昇しています。また、男性の25～29歳、30～34歳の未婚率は、平成27年には、それぞれ73.6%、47.9%と全国平均を上回っています。



資料：国勢調査(総務省)

また、男女の未婚者数には差異があり、男性の未婚者数は、30代で25,269人となり、女性の未婚者を約1万人上回っています。

◎未婚者・有配偶者数(富山県男女)

単位：人

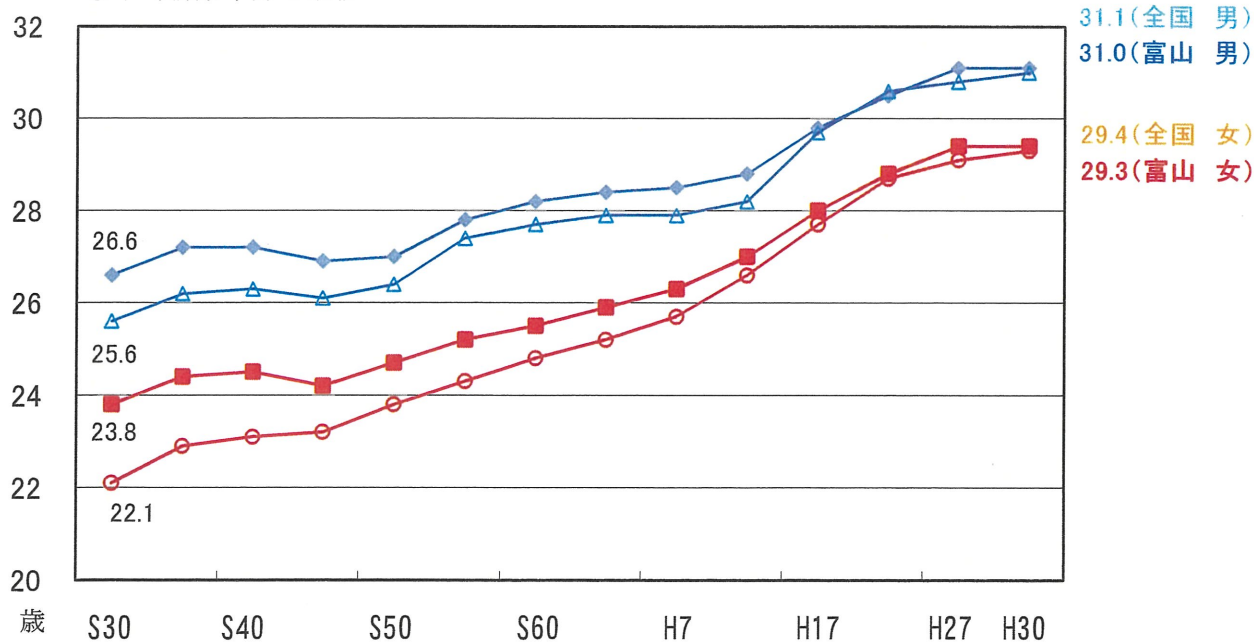
	男		女	
	未婚	有配偶	未婚	有配偶
20歳	4,198	62	3,786	107
25歳	3,980	623	3,158	974
29歳	3,076	1,908	2,166	2,488
20代合計	37,927	7,030	31,217	10,089
30歳	2,812	2,199	1,973	2,781
35歳	2,383	3,424	1,410	3,923
39歳	2,578	4,809	1,324	5,244
30代合計	25,269	34,032	15,282	39,102
40代合計	20,622	50,462	10,599	55,636
合計	147,014	132,586	103,597	154,018

資料：国勢調査(総務省)H27

②晩婚化の進行

平均初婚年齢についても、平成30年には男性31.0歳、女性29.3歳と、男女ともに年々上昇し、理想の結婚年齢(男性29.1歳、女性27.1歳：R元県調査)と開きがある。

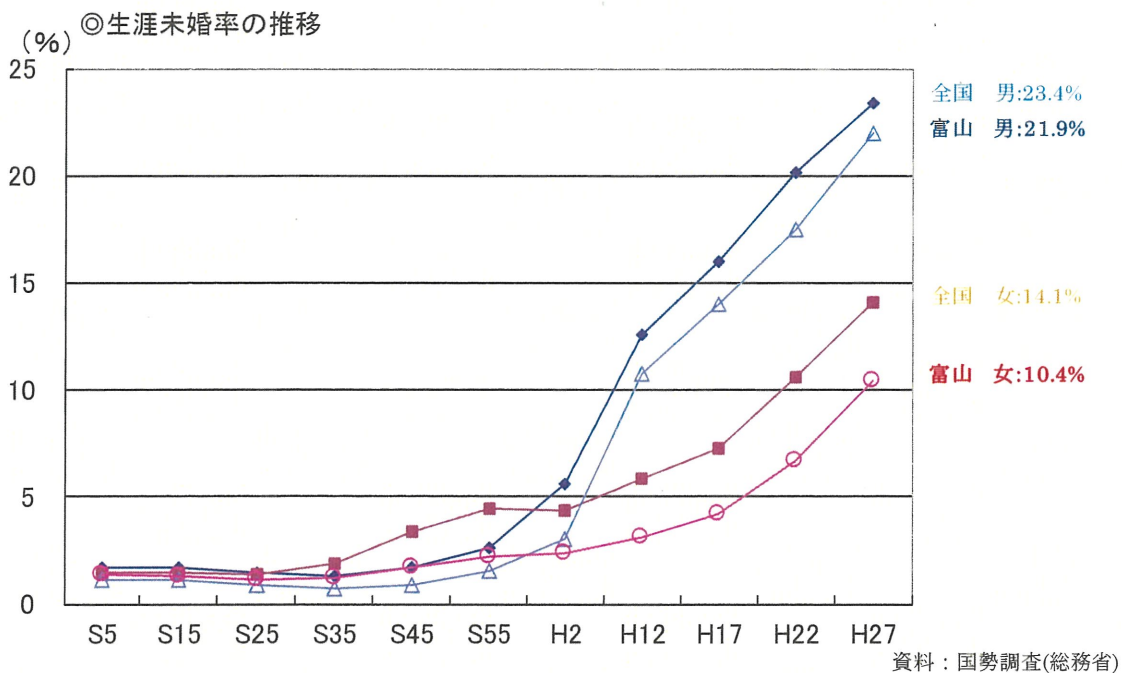
◎平均初婚年齢の推移



資料：人口動態統計(厚生労働省)

③非婚化の進行

生涯未婚率（50歳時点で一度も結婚をしたことのない人の割合）は、男女ともに平成2年から大幅に上昇しており、平成27年では男性が21.9%と、4.5人に1人、女性が10.4%と9.6人に1人は結婚経験がありません。

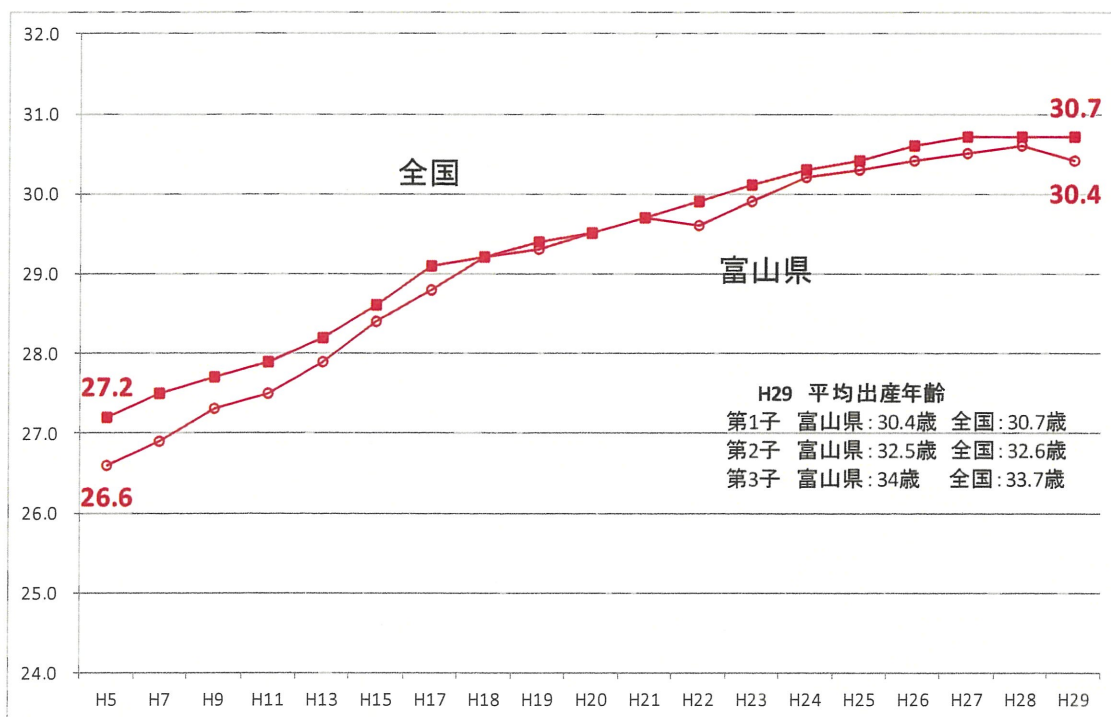


④初産年齢の上昇

第一子出生時の母親の平均年齢は全国と同様に上昇傾向にあり、平成5年に26.6歳だったのに対し、平成29年には30.4歳となっています。初婚年齢が高くなることに伴って、晩産化の傾向が現れており、第1子を持ちたい理想的な年齢27.8歳（R元県調査）とは開きがあります。

また、第1子出産年齢は30.4歳と全国より0.3歳低いが、第3子では全国より0.3歳高くなっている。

◎平均第1子年齢の推移

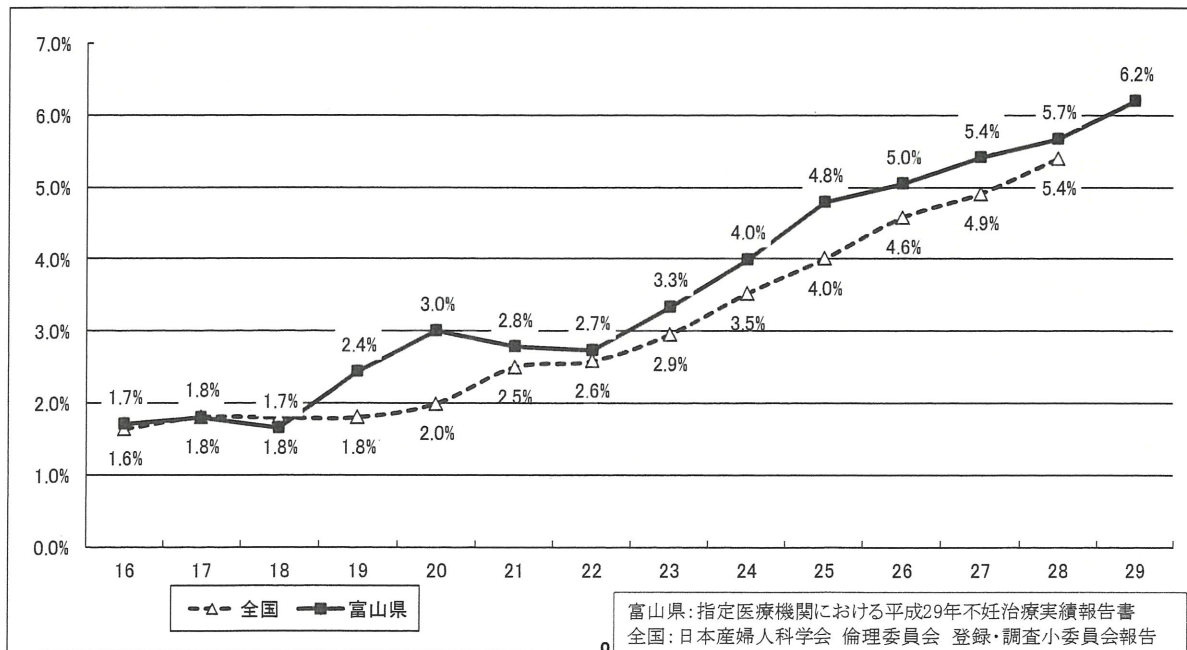


資料 人口動態統計(厚生労働省)

⑤特定不妊治療による出生数の状況

特定不妊治療による出生数は、年々増加傾向にあり、平成29年は6.2%と過去最高となっています。

◎特定不妊治療における出生率



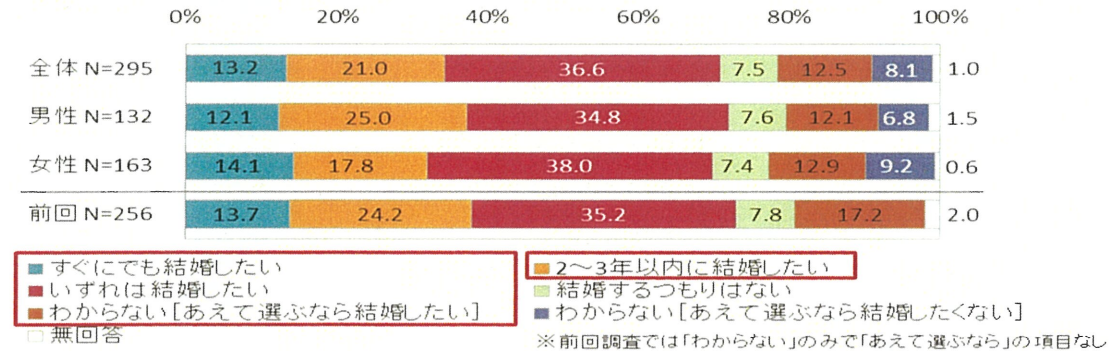
(3) 少子化の要因の背景

①結婚に対する意識

令和元年に行った県の意識調査によると、20代、30代の未婚者の83.3%がいずれは結婚したいと考えています。

また、理想の結婚年齢（平均）は、男性29.1歳、女性27.1歳、子ども（第1子）を持ちたい理想的な年齢は、男性30.0歳、女性27.8歳となっています。

◎結婚に対する意識



資料：「結婚等に関する県民意識調査」（R1 富山県）

◎理想の結婚年齢と子どもを持つ理想的な年齢

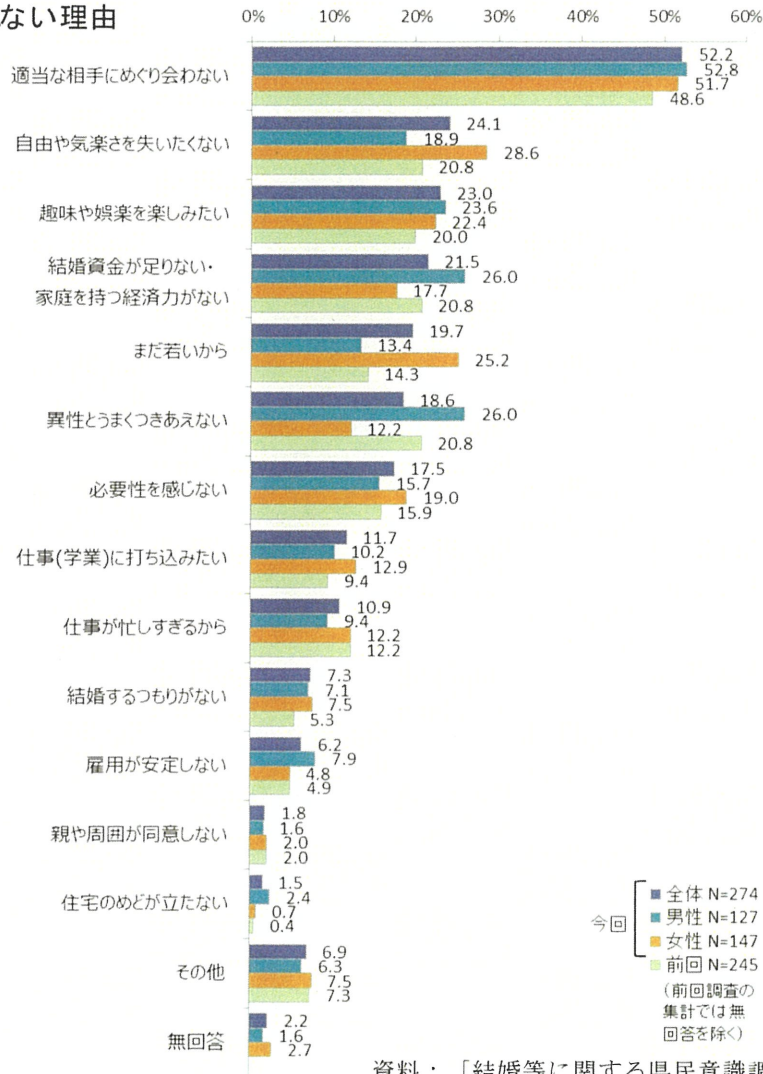
	理想の結婚年齢	子ども(第1子)を持ちたい理想的な年齢
男性の平均	29.1歳	30.0歳
女性の平均	27.1歳	27.8歳

資料：「結婚等に関する県民意識調査」（R1 富山県）

②結婚しない理由、結婚できない理由

現在結婚していない理由としては、「適当な相手にめぐり合わない」が男女とも最も高くなっています。次いで、「自由や気楽さを失いたくない」が男性 18.9% に対し女性 28.6%、「まだ若いから」が男性 13.4% に対し女性 25.2% と、女性の回答が高くなっている一方で、「結婚資金が足りない・家庭を持つ経済力がない」、「異性とうまくつきあえない」という男性の回答が女性を上回っています。

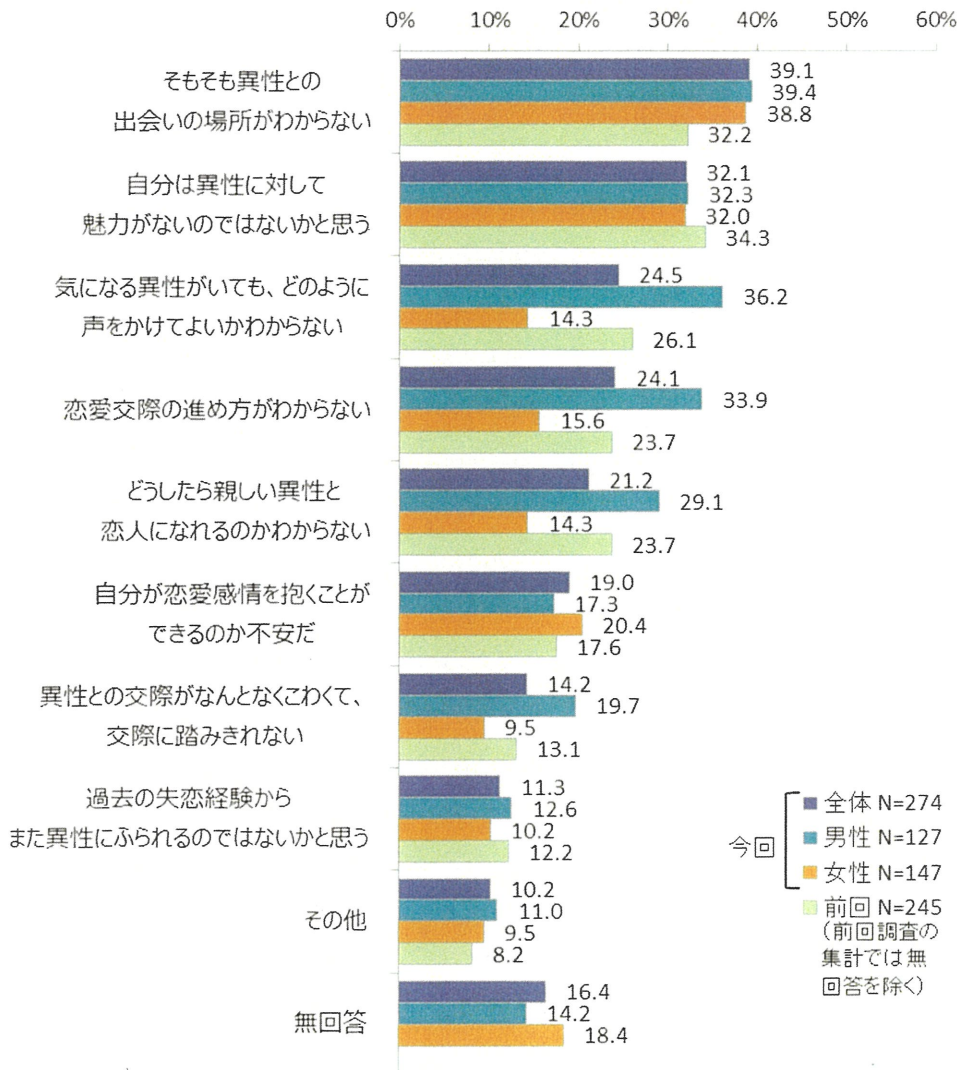
◎現在結婚していない理由



資料：「結婚等に関する県民意識調査」(R1 富山県)

異性と交際する上での不安として、全体では「そもそも異性との出会いの場所がわからない」が39.1%と最も高くなっています。男性は、「どのように声をかけてよいかわからない」「交際の進め方がわからない」などの回答が多くなっています。

◎異性と交際する上での不安（未婚の人：複数回答）

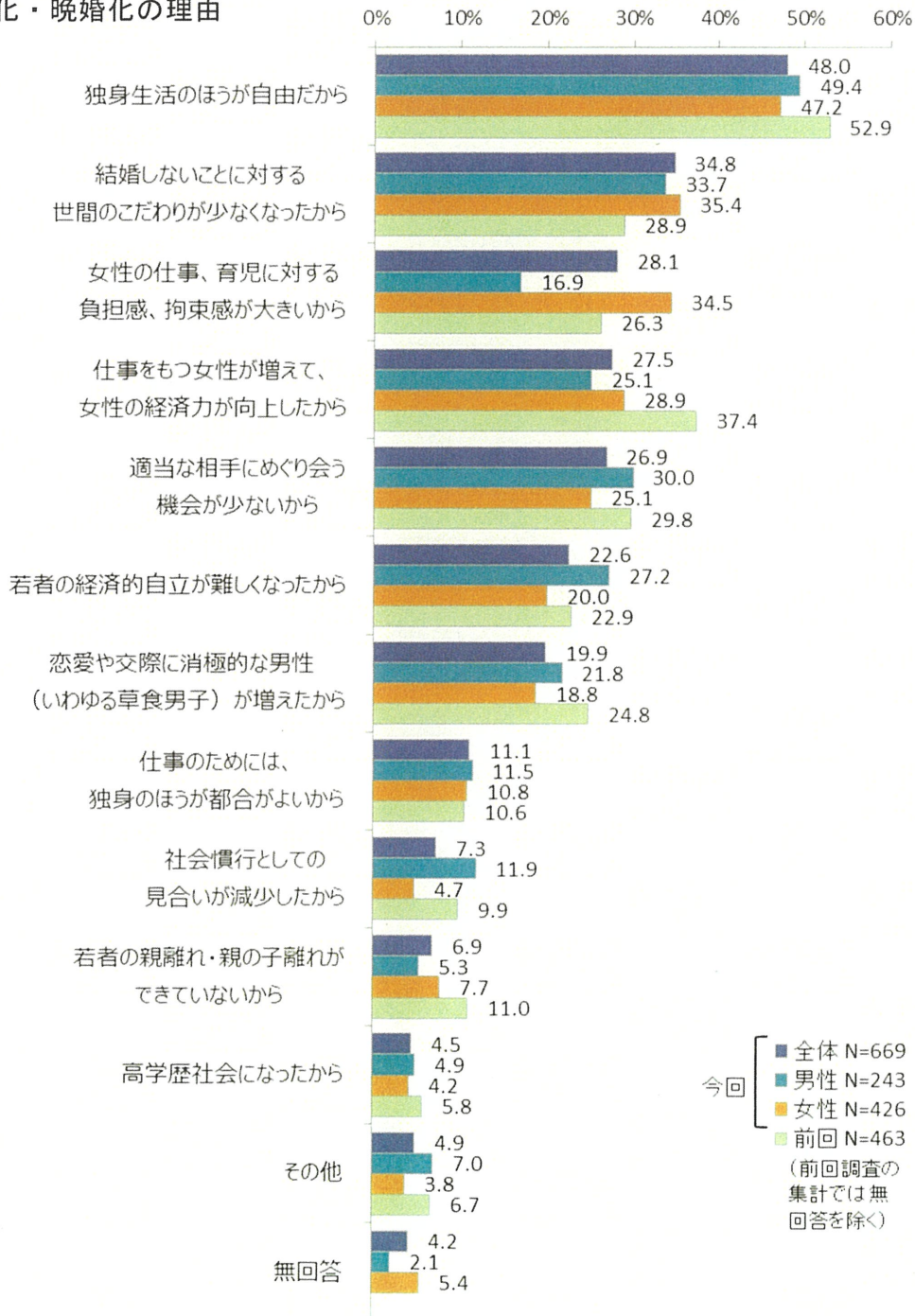


資料：「結婚等に関する県民意識調査」（R1 富山県）

③未婚化・晩婚化の理由

未婚化・晩婚化の理由として、「独身生活のほうが自由だから」という意見が全体として多くなっています。男女に大きな差があるものは、「女性の仕事、育児に対する負担感、拘束感が大きいから」について、女性の回答が34.5%と高くなっています。

◎未婚化・晩婚化の理由

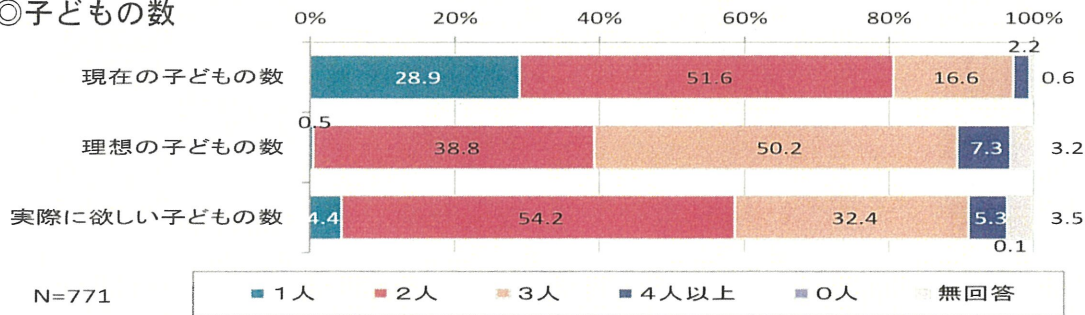


資料：「結婚等に関する県民意識調査」(R1 富山県)

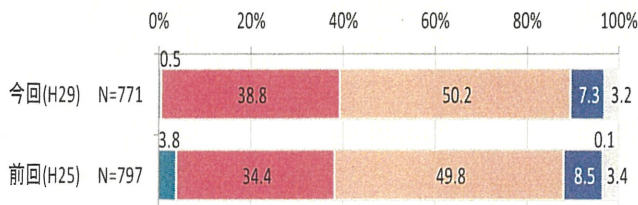
④出産に対する意識

子どもを持つ保護者の理想の子どもの数は、約半数が「3人」と回答している一方、実際に欲しい子供の数は「2人」が約半数とギャップがあります。

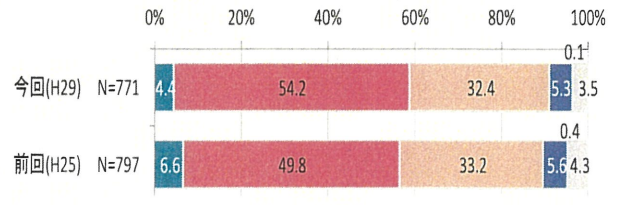
◎子どもの数



《理想の子どもの数 前回比較》



《実際に欲しい子どもの数 前回比較》

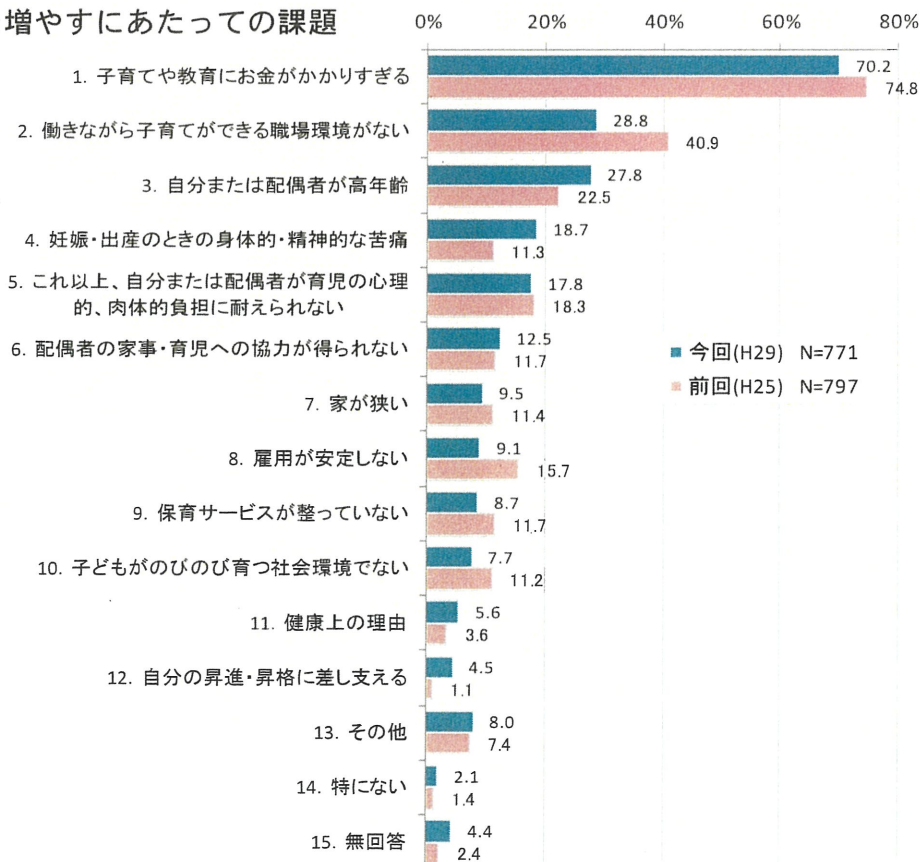


資料：「子育て支援サービスに関する調査」(H29 富山県)

⑤子どもを増やすにあたっての課題

子どもを増やすにあたっての課題として、「子育てや教育にお金がかかりすぎる」が最も多く、次いで「働きながら子育てができる職場環境がない」、「自分または配偶者が高年齢」となっています。上位3位までは前回調査（H25）と同じであるが、「働きながら、子育てができる職場環境がない」は前回より12.1ポイント下がっています。

◎子どもを増やすにあたっての課題



資料：「子育て支援サービスに関する調査」(H29 富山県)

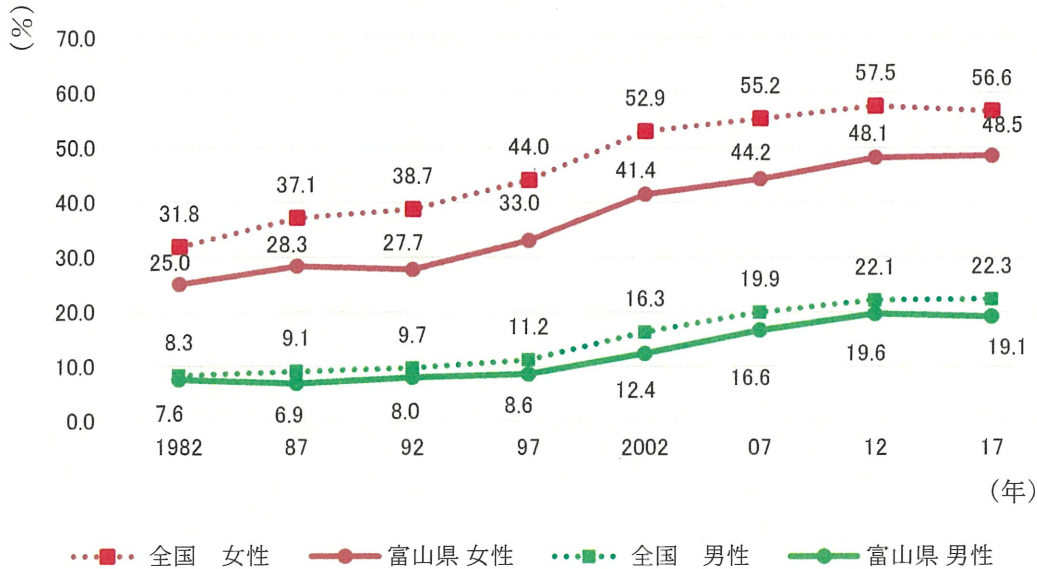
⑥非正規労働者の増大

本県は全国に比べて非正規就業者の割合は低いものの、近年増加傾向にあり、就業者全体の3割を占めており、女性は48.5%、男性は19.1%となっています。

「正規の仕事がないから」として不本意に非正規雇用者として働いている者は全非正規雇用者のうち14.3%となっています。

女性では、30代半ば以降、家事や育児との両立を理由に、非正規雇用を選択している者が多い結果となっています。

◎非正規就業者の割合の推移（富山県・全国）



資料：総務省 「平成 29 年就業構造基本調査」

◎不本意非正規雇用者数（全国）

年齢	不本意非正規雇用者の人数 (万人)	非正規雇用者のうち不本意非正規雇用者の割合		
		男女	男性	女性
全体	273	14.3%	22.7%	10.5%
15～24歳	21	9.3%	10.4%	8.4%
25～34歳	57	22.4%	35.8%	16.4%
35～44歳	51	14.5%	35.0%	10.3%
45～54歳	60	15.4%	40.7%	11.3%
55～64歳	58	14.8%	24.8%	9.7%
65歳以上	27	9.2%	12.3%	5.1%

資料：総務省 「平成 29 年労働力調査」

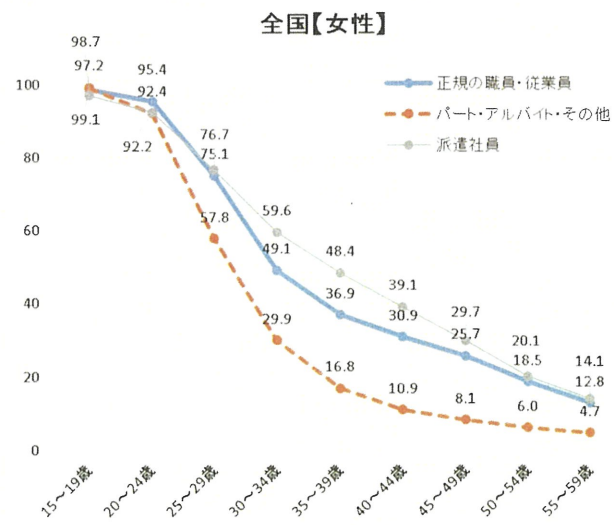
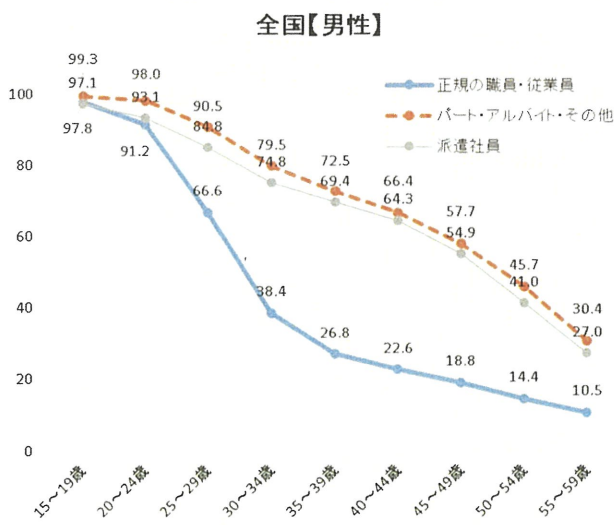
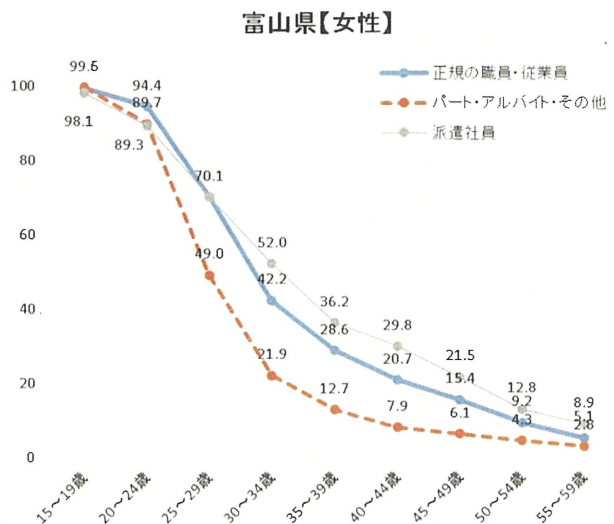
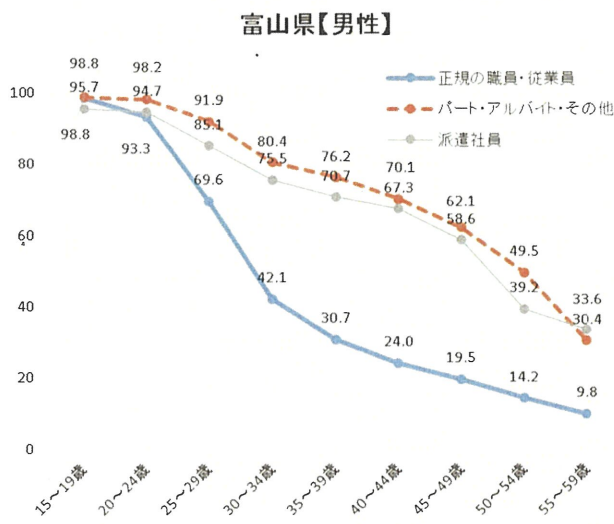
◎女性のうち家事や育児との両立を理由に非正規雇用を選択している者の割合

年齢	割合
全体	17.3%
15～24歳	2.5%
25～34歳	24.3%
35～44歳	28.9%
45～54歳	17.3%
55～64歳	12.0%
65歳以上	6.6%

資料：総務省 「平成 29 年労働力調査」

就業形態別による男性の未婚率は、パート・アルバイト等が正規職員・従業員より高くなっていますが、女性の場合は正規の職員・従業員がパート・アルバイト等より高い傾向があります。

◎就業形態別未婚率

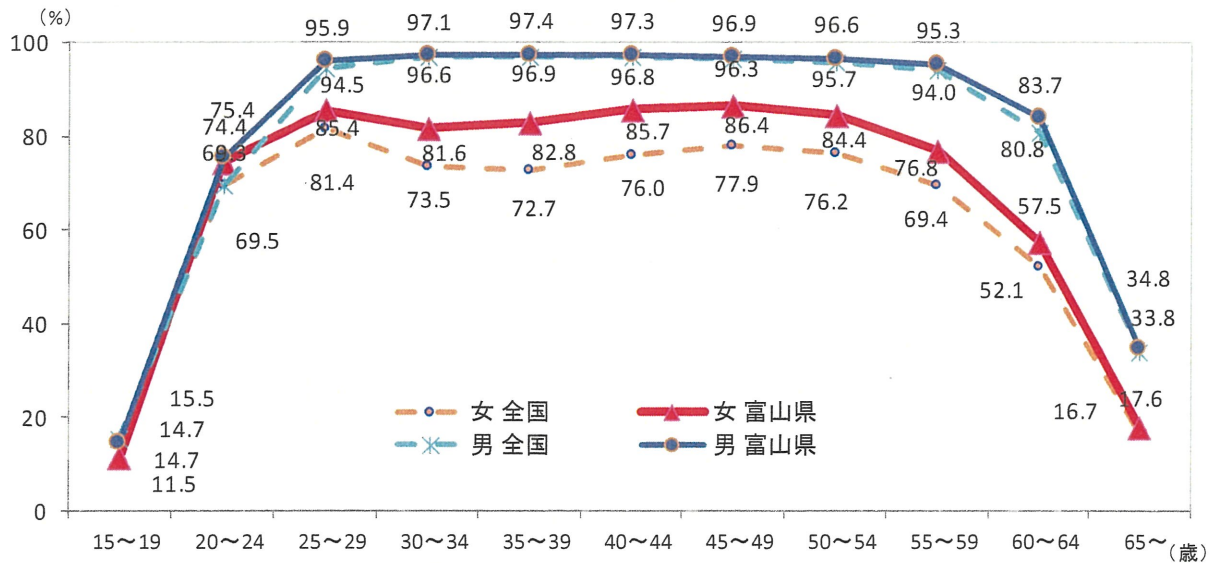


資料：総務省「国勢調査」（平成 27 年 就業状態等基本集計）

⑦高い女性の就業率

本県の女性の就業率は、平成27年で72.0%（全国順位3位）と高い状況にあり、三世帯同居率が高く、家族支援が得られやすい環境などから、出産育児期に働く女性の割合も全国より高くなっています。

◎年齢階級別男女別労働力率の推移(H27)



資料: 国勢調査(H27 総務省)

本県の共働き率は、55.9%（全国47.6% H27年）と全国4位となっており、特に子どものいる世帯の共働き率は、最年少の子どもが3～5歳では79.8%、小学生の子育て世帯では82.1%と大変高くなっています。

	夫が就業している妻の就業者数 (A)	夫が就業している妻の非就業者数 (B)	夫が就業していない妻の就業者数 (C)	夫が就業していない妻の非就業者数 (D)	共働き率 (A) / (A) + (B) + (C) + (D)
夫婦のいる一般世帯(世帯数)	134,247	45,959	11,817	48,219	55.9%
子供なし	37,291	17,335	6,174	31,404	40.4%
子供あり	96,956	28,624	5,643	16,815	65.5%
最年少の子供が0歳	3,154	3,346	23	54	48.0%
最年少の子供が1歳	4,105	2,321	25	30	63.3%
最年少の子供が2歳	4,126	1,615	33	22	71.2%
3～5歳の子供 (3歳～未就学児の子育て世帯)	10,808	2,393	452	252	77.7%
6～11歳の子供 (小学生の子育て世帯)	19,824	3,533	452	252	82.4%
12～14歳の子供 (中学生の子育て世帯)	10,147	1,489	452	252	82.2%

資料: 国勢調査(総務省) H27

夫と妻の就業上の地位は、夫も妻も正規の職員・従業員の割合は34.3%と全国に比べ高くなっています。

◎夫妻ともに就業者における夫と妻それぞれの従業上の地位の割合
(富山県)

夫 \ 妻	正規の職員・従業員	派遣社員	パート・アルバイト等	その他	夫計
正規の職員・従業員	34.3	1.7	29.2	2.2	67.4
派遣社員	0.3	0.2	0.4	0.0	0.9
パート・アルバイト等	1.7	0.1	4.3	0.5	6.6
その他	6.1	0.2	5.7	13.1	25.1
妻計	42.4	2.2	39.6	15.8	100.0

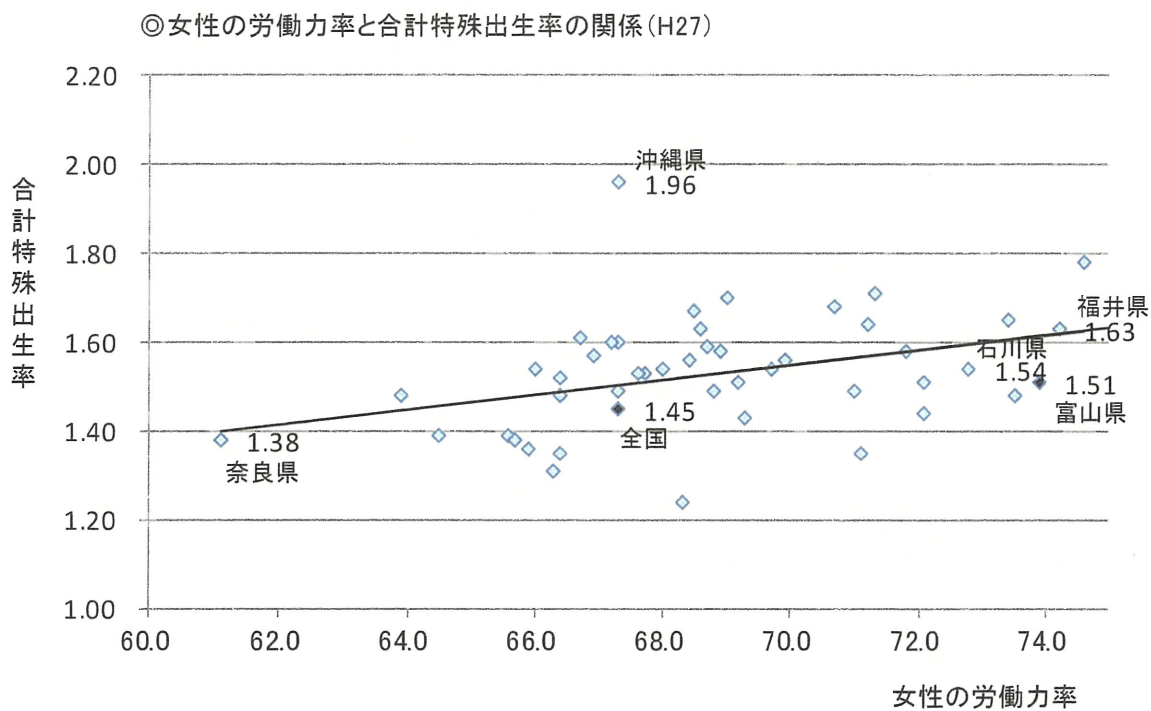
(全国)

夫 \ 妻	正規の職員・従業員	派遣社員	パート・アルバイト等	その他	夫計
正規の職員・従業員	23.6	1.8	34.5	2.9	62.8
派遣社員	0.2	0.2	0.6	0.1	1.1
パート・アルバイト等	1.3	0.1	4.7	0.6	6.7
その他	5.5	0.3	6.7	16.9	29.4
妻計	30.6	2.4	46.5	20.5	100.0

資料：総務省「国勢調査」(平成27年 就業状態等基本集計)

⑧女性の労働力率と合計特殊出生率の関係

都道府県別の女性の労働力率と合計特殊出生率の関係をみると、労働力率が高い都道府県の方が、合計特殊出生率も高い傾向があります。



資料 「国勢調査」(総務省)、「人口動態統計」(厚労省)